17.7.19 山陽新聞
第3種郵便物認可

# 太陽光発電で自動かん水

## 岡山県内 装置導入拡大

### 手間省け燃料費不要

### 設置100ヵ所 5年前の3倍超

太陽光発電を利用して野菜などの畑に水をまく「自動かん水装置」の導入が、岡山県内で広がっている。従来のエンジン駆動の装置のように手動で作動・停止する必要がなく、燃料費も掛からないことから、設置箇所は5年前の3倍超となる約100カ所に増加。県が昨年春に上方修正した設置目標(2020年度末で115カ所)を上回るペースとなっている。(平松隆)

自動かん水装置は、太陽光パネルで生み出した電力でポンプを動かし、ため池や用水から水をくみ上げてタンクに貯水。タンク内の水位が一定量以上になればセンサーが感知し、畑に張り巡らせたチューブ管に自動給水して水をまく仕組み。

ポンプは太陽光で作動するため、畑が乾燥する晴れた日に水をくみ上げて配水する。一方で、水まきが必要ない雨天時は作動しないため、農家が畑に出向いて装置を作動したり止めたりする手間が省ける。

一般的に普及しているエンジン駆動のかん水装置は、ガソリン代がかかる上、天候をみながら装置を起動・停止しなければならない。用水の堰(せき)を開いて畑に水を引き込むかん水方法もあるが、堰の開閉作業が必要となる。

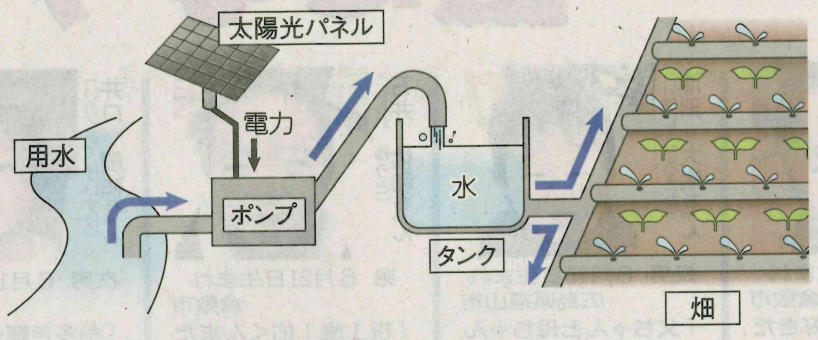
自動かん水装置は、近畿中国四国農業研究センター(福山市)が05年度、農作業の効率化や負担軽減を狙いに開発。岡山県内では08年ごろから普及し始め、キュウリやナス、アスパラガスなどに使われている。

同センターによると、10アールの畑では出力40ワットの太陽光パネル装置で対応でき、全体の設備費用は20万円前後。県は生産者団体が導入する場合、設備費の3分の1～4分の1を負担する補助制度も設けている。

4年前、キュウリ畑21アールに導入したJAつやま久米南キュウリ部会の前部会長、光元一郎さん(57)=久米南町別所=は「設置に約30万円掛かったが、かん水にかける時間と労力はほぼゼロになった。炎天下のかん水作業は大変で、導入の価値はある」と話す。

岡山県農林水産総合センター(赤磐市)は「岡山は晴れの日が多い上、夏場に十分な水が確保しにくい地域もあり、導入メリットは大きい。高齢化が進む農家の負担を和らげるためにも普及を後押ししたい」としている。

自動かん水装置の仕組み



普及が進む太陽光発電利用の自動かん水装置＝岡山県久米南町